

## 平成9年度観光入込客数調査の概要

道では、平成8年3月、「全国観光統計基準」が制定されたことを受け、「北海道観光入込客数調査要領」を全面改正し、平成9年度よりこの基準に沿った調査を実施しております。主な改正内容や調査は、次のとおりとなっております。

### 【主な改正点】

#### 1 調査対象市町村

これまでは、道内の104主要観光地を有する118市町村で調査を実施していましたが、平成9年度より、「観光入込客数が年間5万人以上見込まれる市町村（202市町村）」を調査対象としました。

#### 2 実人数による推計

これまでは、道内104主要観光地の観光入込客数の集計を道の観光入込客（延べ人数）としていましたが、平成9年度から、市町村が行う観光入込客数、道が実施する観光客動態調査を基に、道の観光入込客数を実人数で推計することとしました。

また、宿泊人数については、道外客と道内客をそれぞれ推計することとし、外国人入込客数についても推計することとしました。

#### 3 訪日外国人入込客数

平成9年度から、北海道を訪れた外国人について、「宿泊施設調査」や「動態調査」などから、入込客数（実人数）や宿泊延べ数を推計することとしました。

### 記

#### 1 北海道における観光入込客実人数

(1) 観光入込客数の実人数 4,850万人

うち道外客 596万人（前年同期比12.4%、66万人増）

うち道内客 4,254万人

( 2 ) 道外客の増加要因

- ・ 平成 8 年度の航空路線（道内直行便）の拡充効果
- ・ 本州の 6 月下旬～ 7 月上旬の猛暑による避暑客の増加
- ・ 低廉なパッケージ商品の販売による増加
- ・ 北海道観光の魅力に対する根強い人気 など

2 観光圏域別観光入込客延べ人数（ 2 0 2 市町村の合計）

観光入込客延べ人数（総数） 1 4 , 0 7 0 万人

- ・ 道 央 圏 7 , 5 9 6 万人（構成比 5 4 . 0 %）
- ・ 道 北 圏 2 , 0 1 5 万人（同 1 4 . 3 %）
- ・ 道 南 圏 1 , 4 0 2 万人（同 1 0 . 0 %）
- ・ オホーツク圏 1 , 1 5 8 万人（同 8 . 2 %）
- ・ 釧路根室圏 9 9 3 万人（同 7 . 1 %）
- ・ 十 勝 圏 9 0 5 万人（同 6 . 4 %）

3 主要観光地における観光入込客数（ 1 0 4 主要観光地 1 1 8 市町村の合計）

( 1 ) 観光入込客延べ人数 1 2 , 7 8 5 万人（前年同期比 2 . 3 %、 2 9 3 万人増）

うち道外客 4 , 5 1 1 万人（前年同期比 4 . 1 %、 1 7 7 万人増）

うち道内客 8 , 2 7 3 万人（前年同期比 1 . 4 %、 1 1 6 万人増）

( 2 ) 増加要因

- ・ 道外客の順調な増加
- ・ 豊浜トンネルの復旧と国道 2 2 9 号の全面開通による積丹地域の大幅な増加や海水浴客の増加などによる道内客の増加

4 訪日外国人入込客数（実人数）

( 1 ) 訪日外国人入込客数（実人数） 1 1 万 8 , 6 0 0 人

- ・ うち台湾 5 万 2 , 8 0 0 人
- ・ うち韓国 1 万 5 , 7 0 0 人
- ・ うち香港 1 万人

( 2 ) 訪日外国人宿泊延べ人数 3 5 万人 2 , 5 0 0 人泊

## 資料 《観光入込客数調査関係》

### 1 観光入込客数（実人数）

（単位：万人、％）

区分	観光入込客数	左の内訳		季節別内訳			
		日帰り客	宿泊客	春(4月~5月)	夏(6月~9月)	秋(10~11月)	冬(12月~3月)
道内客	4,254 (87.7%)	3,343	911	587	2,270	545	852
道外客	596 (12.3%)	3	593	77	340	69	109
合計	4,850 (100.0%)	3,346 (69.0%)	1,504 (31.0%)	664 (13.7%)	2,610 (53.8%)	614 (12.7%)	961 (19.8%)

注)千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

### 2 来道観光客数（実人数）

区分		合計	構成比	春(4月~5月)	夏(6月~9月)	秋(10~11月)	冬(12月~3月)
合計	来道観光客数	596万人	100.0%	77万人	340万人	69万人	109万人
	構成比	100.0%		12.9%	57.1%	11.6%	18.4%
	前年度対比	112.4%		103.0%	118.2%	108.0%	105.7%
航空機	来道観光客数	475万人	79.7%	59万人	268万人	56万人	92万人
	構成比	100.0%		12.4%	56.3%	11.8%	19.5%
	前年度対比	115.5%		107.6%	121.8%	111.5%	106.6%
フェリー	来道観光客数	71万人	11.9%	9万人	49万人	5万人	7万人
	構成比	100.0%		12.5%	69.9%	7.0%	10.5%
	前年度対比	103.0%		82.6%	107.4%	105.3%	103.9%
鉄道	来道観光客数	50万人	8.4%	9万人	23万人	8万人	9万人
	構成比	100.0%		18.4%	46.6%	16.8%	18.2%
	前年度対比	100.3%		98.9%	105.3%	91.0%	98.8%

注)千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

### 3 観光入込客数（延べ人数）

区分	観光入込客数	春(4月~5月)	夏(6月~9月)	秋(10~11月)	冬(12月~3月)
202市町村	14,070万人	1,925万人	7,626万人	1,810万人	2,708万人
道外客	4,519万人	564万人	2,683万人	550万人	721万人
道内客	9,551万人	1,360万人	4,943万人	1,260万人	1,987万人
日帰り客	11,174万人	1,569万人	6,227万人	1,385万人	1,993万人
宿泊客	2,896万人	356万人	1,399万人	425万人	715万人

注)千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

### 4 主要観光地別観光入込客数（延べ人数）

区分	観光入込客数	前年同期比
104観光地	12,785万人	102.3%
道外客	4,511万人	104.1%
道内客	8,273万人	101.4%
日帰り客	9,997万人	102.5%
宿泊客	2,788万人	101.9%

注)千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

5 平成9年度圏域別観光入込客数(延べ人数)

(単位:(延べ)万人、%)

区 分		総 数		道 外 客		道 内 客	
			圏域別割合		圏域別割合		圏域別割合
全 道	入込総数	14,070		4,519		9,551	
	構成比	100.0	100.0	32.1	100.0	67.9	100.0
道 南 圏	入込総数	1,402		627		775	
	構成比	100.0	10.0	44.7	13.9	55.3	8.1
道 央 圏	入込総数	7,596		1,995		5,602	
	構成比	100.0	54.0	26.3	44.1	73.7	58.7
道 北 圏	入込総数	2,015		680		1,335	
	構成比	100.0	14.3	33.7	15.0	66.3	14.0
オホーツク圏	入込総数	1,158		559		599	
	構成比	100.0	8.2	48.3	12.4	51.7	6.3
十 勝 圏	入込総数	905		230		675	
	構成比	100.0	6.4	25.4	5.1	74.6	7.1
釧路・根室圏	入込総数	993		424		569	
	構成比	100.0	7.1	42.7	9.4	57.3	6.0

区 分		日 帰 り 客		宿 泊 客	
			圏域別割合		圏域別割合
全 道	入込総数	11,174		2,896	
	構成比	79.4	100.0	20.6	100.0
道 南 圏	入込総数	993		409	
	構成比	70.8	8.9	29.2	14.1
道 央 圏	入込総数	6,223		1,374	
	構成比	81.9	55.7	18.1	47.4
道 北 圏	入込総数	1,582		433	
	構成比	78.5	14.2	21.5	15.0
オホーツク圏	入込総数	928		230	
	構成比	80.1	8.3	19.9	7.9
十 勝 圏	入込総数	713		192	
	構成比	78.8	6.4	21.2	6.6
釧路・根室圏	入込総数	735		258	
	構成比	74.0	6.6	26.0	8.9

注) 1 入込み総数は、202市町村からの報告を集計した延べ人数である。

注) 2 四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

《訪日外国人入込客数調査関係》

1 訪日外国人の来道客数

(単位:人、人泊)

	アジア							ヨーロッパ	
	台湾	韓国	香港	中国	シンガポール	その他	小計	ロシア	その他
実人数	52,800	15,700	10,000	2,200	1,400	2,800	84,900	7,300	7,500
宿泊延数	171,013	42,739	30,312	6,544	4,243	13,219	268,061	8,772	21,237

	北米		中南米	アフリカ	オセアニア	不明	合計
	米国	カナダ					
実人数	8,700	1,000	700	400	3,300	4,800	118,600
宿泊延数	24,799	2,572	3,421	3,604	5,389	14,608	352,464

2 訪日外国人宿泊延べ数の多い市町村

(単位:人泊)

順位	市町村名	宿泊延べ数	左のうち(主要国)	
			台湾	韓国
1	札幌市	93,771	34,271	7,519
2	壮瞥町	35,112	27,230	7,882
3	函館市	28,316	20,699	659
4	千歳市	24,643	4,115	7,222
5	阿寒町	21,667	21,351	28

3 圏域別訪日外国人宿泊延べ数

(単位:人泊、%)

圏域	宿泊延べ数	構成比	左のうち(主要国)	
			台湾	韓国
道南	31,264	8.9	21,731	1,054
道央	228,837	64.9	97,776	28,226
道北	28,300	8.0	19,289	422
オホーツク	8,645	2.5	4,184	1,716
十勝	24,882	7.1	5,986	1,037
釧路・根室	30,536	8.7	22,047	284
合計	352,464	100.0	171,013	42,739

## 北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

北海道では、昨年「全国観光統計基準」が制定されたことを受け、「北海道観光入込客数調査要領」を全面改正し、平成9年度よりこの基準に沿った調査を実施しております。主な改正内容や調査は、次のとおりとなっております。

### 1 主な改正内容

#### (1) 調査対象市町村

これまでは、道内の104主要観光地を有する118市町村で調査を実施していましたが、平成9年度より、「観光入込客数が年間5万人以上見込まれる市町村(202市町村)」を調査対象としました。

#### (2) 実人数による推計

これまでは、道内104主要観光地の観光入込客数の集計を道の観光入込客数(延べ人数)としていましたが、平成9年度から、市町村が行う観光入込客数、道が実施する観光客動態調査を基に、道の観光入込客数を実人数で推計することとしました。

また、宿泊人数については、道外客と道内客をそれぞれ推計することとし、外国人入込客数についても推計することとしました。

### 2 調査内容

#### (1) 観光入込客数

##### ア 観光入込客数【実人数】

道内202市町村の観光入込客数や観光動態調査などにより推計した北海道における観光入込客の実人数。

実人数とは： 1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数える。

##### イ 観光入込客数【延べ人数】

道内202市町村の観光入込客入込み客数を集計した観光入込客の延べ人数。

延べ人数とは： 1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合、それぞれの市町村でカウントされるため5人と数えられる。

##### ウ 主要観光地の観光入込客数【延べ人数】

前年度との比較を行うため、これまで調査対象としていた104主要観光地(118市町村)の観光入込客数を集計した観光入込客の延べ人数。

#### (2) 来道観光客数

平成9年度の交通機関(航空機、フェリー、鉄道)の下り便の輸送実績を基に、平成7~9年度に実施した「来道観光客率調査」や「来道観光客動態調査」により推計した来道観光客の実人数。

#### (3) 訪日外国人入込客数

平成9年度に、北海道を訪れた外国人について、「宿泊施設調査」や「動態調査」などから推計した訪日外国人入込客数。

### 3 利用上の留意事項

(1) 今回の調査は、平成9年度(H9.4~H10.3)を基に行っており、「春」は4・5月、「夏」は6月~9月、「秋」は10・11月、「冬」は12月~3月までとして、取り扱っております。

(2) 市町村ごとの観光入込客数調査は、実人数で推計していますが、「支庁の計」、「圏域の計」は延べ人数となっております。

## 平成9年度観光入込客数調査の概要

### 1 観光入込客数（実人数）

道では、本年度から、道内202市町村が実施している「観光入込客数調査」と道が実施している「観光動態調査」をもとに、観光入込客数の実人数を推計することとしました。

平成9年度の観光入込客総数（実人数）を調査結果から推計すると4,850万人となり、うち道外客は596万人（構成比12.3%）、道内客は4,254万人（同87.7%）となっています。

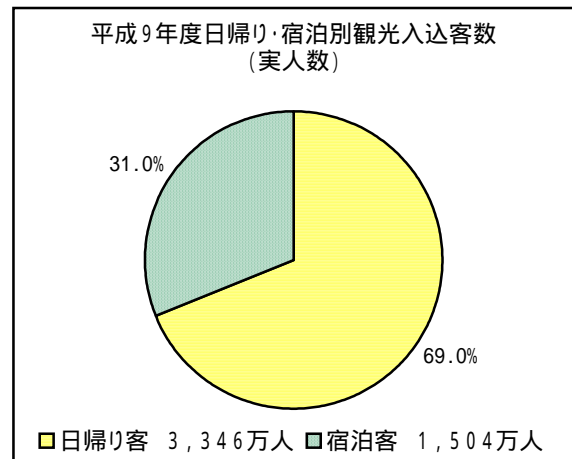
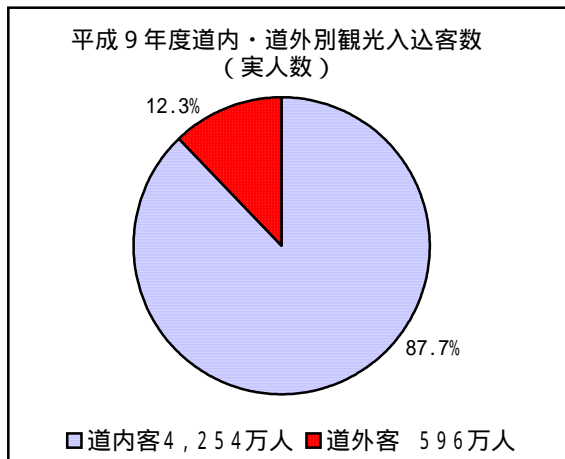
また、日帰り・宿泊別では、日帰り客は3,346万人（同69.0%）、宿泊客は1,504万人（同31.0%）となっています。

### 平成9年度観光入込客（実人数）

（単位：万人、%）

区分	観光入込客数	左の内訳		季節別内訳			
		日帰り客	宿泊客	春	夏	秋	冬
道内客	4,254 (87.7%)	3,343	911	587	2,270	545	852
道外客	596 (12.3%)	3	593	77	340	69	109
合計	4,850 (100.0%)	3,346 (69.0%)	1,504 (31.0%)	664 (13.7%)	2,610 (53.8%)	614 (12.7%)	961 (19.8%)

注)千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。



## 2 観光入込客数

### (1) 観光入込客数(延べ人数)

道内202市町村が調査した平成9年度の観光入込客数は、延べ1億4,070万人で、うち道外客は4,519万人(構成比32.1%)、道内客は9,551万人(同67.9%)となっています。

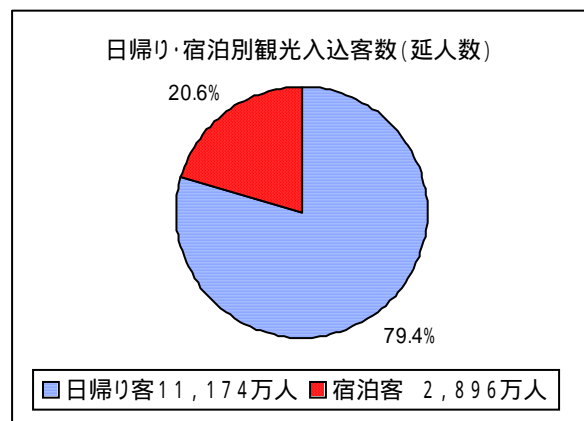
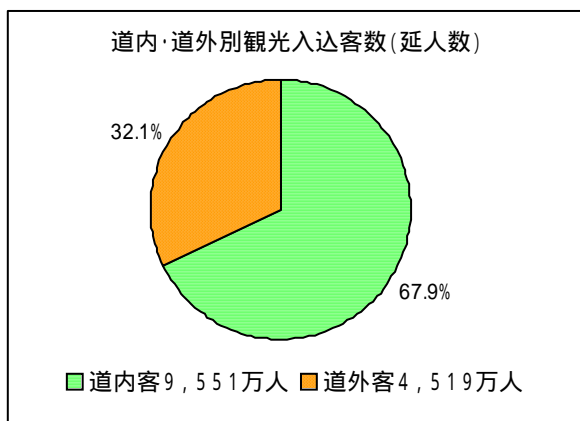
また、日帰り・宿泊別では、日帰り客は1億1,174万人(同79.4%)、宿泊客は2,896万人(同20.6%)となっています。

### 平成9年度観光入込客数(202市町村延べ人数)

(単位:万人、延べ数)

区分	観光入込客数	春	夏	秋	冬
202市町村	14,070	1,925	7,626	1,810	2,708
道外客	4,519	564	2,683	550	721
道内客	9,551	1,360	4,943	1,260	1,987
日帰り客	11,174	1,569	6,227	1,385	1,993
宿泊客	2,896	356	1,399	425	715

注)千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。



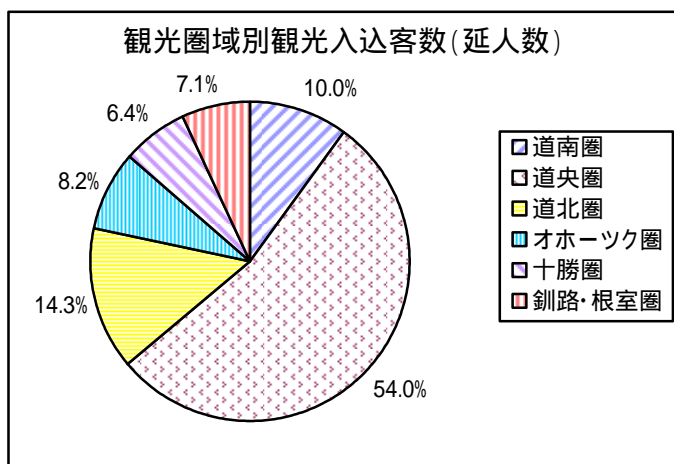


道内6観光圏域別の観光入込客数をみると、道央圏が7,596万人で最も多く、次いで、道北圏が2,015万人、以下、道南圏1,402万人、オホーツク圏1,158万人、釧路・根室圏993万人、十勝圏905万人となっています。

観光圏域別観光入込客数(202市町村延べ人数)

観光圏域	観光入込客数	構成比
道南圏	1,402万人	10.0%
道央圏	7,596万人	54.0%
道北圏	2,015万人	14.3%
オホーツク圏	1,158万人	8.2%
十勝圏	905万人	6.4%
釧路・根室圏	993万人	7.1%
合計	14,070万人	100.0%

注)四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。



(2) 主要観光地における観光入込客数(延べ人数)

平成8年度まで「主要観光地における観光入込客調査」を実施していた市町村の観光入込客数をもとに、平成9年度の主要104観光地における観光入込客数を推計すると、延べ1億2,785万人で、前年同期に比べ2.3%の増加となります。

増加した要因としては、道外客が平成7、8年度の航空路線の拡充により順調に増加していることや、道央圏において、昨年、豊浜トンネル崩落事故により減少した積丹地域が、トンネルの復旧と国道の全面開通により増加したこと、また、海水浴客の増加などによるものです。

一方、道内経済が沈滞していることや、8月の豪雨による国道5号線の通行規制などが、入込みに影響していると思われます。

道外客・道内客別にみると、道外客は4,511万人(構成比35.3%)、道内客は8,273万人(同64.7%)となっており、前年同期に比べ、道外客は4.1%、道内客は1.4%増加しています。

また、日帰り・宿泊客別にみると、日帰り客は9,997万人(構成比78.2%)、宿泊客は2,788万人となっており、前年同期に比べ、日帰り客は2.5%、宿泊客は1.9%増加しています。

平成9年度主要観光地観光入込客数(延べ人数)

区 分	観光入込客数	前年同期比
104観光地	12,785万人	102.3%
道外客	4,511万人	104.1%
道内客	8,273万人	101.4%
日帰り客	9,997万人	102.5%
宿泊客	2,788万人	101.9%

注 1 入込客数は、主要観光地104箇所を有する118市町村の入込人数を集計した延べ数となっています。

2 四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

3 平成9年度に調査要領を改正したため、前年度対比に用いた8年度の入込客数は新たに試算しております。従って8年度公表数値と一致いたしません。

4 平成9年度の入込客数は、重複カウントが是正されているため、8年度公表数値と比較して減となっています。

## 来道観光客に関する調査の概要

### 1 概 況

平成9年度の交通機関(航空機・フェリー・鉄道)の下り便の輸送実績を基に推計した来道観光客数は、596万人となっており、前年に比べ12.4%の増加となっています。

季節別にみると、本州の猛暑などから北海道の人気が高かった夏(6月～9月)が340万人で最も多く、全体の57.1%を占め、次いで、流氷観光等が好調だった冬(12月～3月)が109万人(18.4%)、春(4月～5月)が77万人(12.9%)、秋(10月～11月)が69万人(11.6%)の順となっています。

### 2 交通機関別の状況

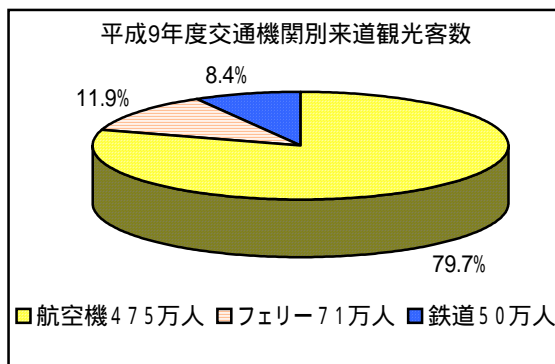
平成9年度に来道観光客数を交通機関別にみると、航空機が475万人(構成比79.7%)と最も多く、次いで、フェリーが71万人(構成比11.9%)、鉄道が50万人(構成比8.4%)となっています。

平成9年度来道観光客数(交通機関別・季節別)

	区分	合計	構成比	春	夏	秋	冬
合計	来道観光客数	596万人	100.0%	77万人	340万人	69万人	109万人
	構成比	100.0%		12.9%	57.1%	11.6%	18.4%
	前年度対比	112.4%		103.0%	118.2%	108.0%	105.7%
航空機	来道観光客数	475万人	79.7%	59万人	268万人	56万人	92万人
	構成比	100.0%		12.4%	56.3%	11.8%	19.5%
	前年度対比	115.5%		107.6%	121.8%	111.5%	106.6%
フェリー	来道観光客数	71万人	11.9%	9万人	49万人	5万人	7万人
	構成比	100.0%		12.5%	69.9%	7.0%	10.5%
	前年度対比	103.0%		82.6%	107.4%	105.3%	103.9%
鉄道	来道観光客数	50万人	8.4%	9万人	23万人	8万人	9万人
	構成比	100.0%		18.4%	46.6%	16.8%	18.2%
	前年度対比	100.3%		98.9%	105.3%	91.0%	98.8%

注1) 千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

注2) 9年度に来道観光客率の見直しを実施したため、前年度対比に利用した8年度来道観光客数は新たに試算しています。従って、8年度公表数と一致しません。



来道観光客の推移

(単位：万人)

交通機関名	区 分	62年度	63年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
合計	観光客数	275	312	353	392	418	424	
	前年度対比	113.9%	113.5%	112.9%	111.2%	106.6%	101.4%	
内 訳	航空機	観光客数	147	156	203	236	255	264
		前年度対比	113.9%	106.4%	129.8%	116.2%	108.0%	103.7%
	フェリー	観光客数	69	78	87	92	100	100
		前年度対比	106.3%	113.0%	111.5%	105.1%	108.9%	100.5%
	鉄道	観光客数	59	78	62	65	63	59
		前年度対比	124.5%	131.8%	80.3%	103.6%	98.3%	93.5%

交通機関名	区 分	5年度	6年度	7年度	8年度	(8年度試算値)	9年度	
合計	観光客数	412	425	430	472	(530)	596	
	前年度対比	97.1%	103.2%	101.2%	109.7%	-	112.4%	
内 訳	航空機	観光客数	264	274	287	359	(411)	475
		前年度対比	99.9%	104.0%	104.6%	125.0%	-	115.5%
	フェリー	観光客数	95	101	96	64	(69)	71
		前年度対比	95.0%	105.7%	95.6%	66.8%	-	103.0%
	鉄道	観光客数	52	50	47	48	(50)	50
		前年度対比	88.3%	94.8%	94.0%	103.5%	-	100.3%

9年度に観光客率の見直しを実施したため、前年度対比に利用した8年度来道観光客数に新たに試算した観光客数(8年度試算値)です。

# 観光客動態調査の概要

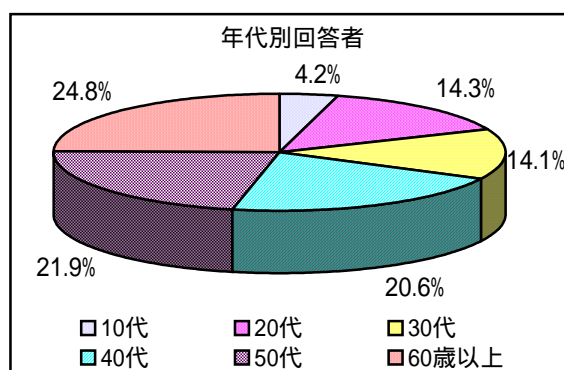
## 1 道外客の観光動態

道では、平成9年度から四季ごとに道内各空港、フェリーターミナル及びJR津軽海峡線車内において利用客に観光動態アンケート調査票を配布し、郵送により回収しています。その結果から得られた来道観光客の動態は次のとおりとなっています。

### (1) 年代別回答者

回答者を年代別にみると、「60歳以上」が24.8%で最も多く、次いで「50代」21.9%、「40代」20.6%、以下「20代」、「30代」、「10代」の順になっています。

季節別では、春と秋は「60歳以上」、夏は「40代」、冬は「20代」が最も高い割合を占めています。



### 季節別・年代別の調査回答者

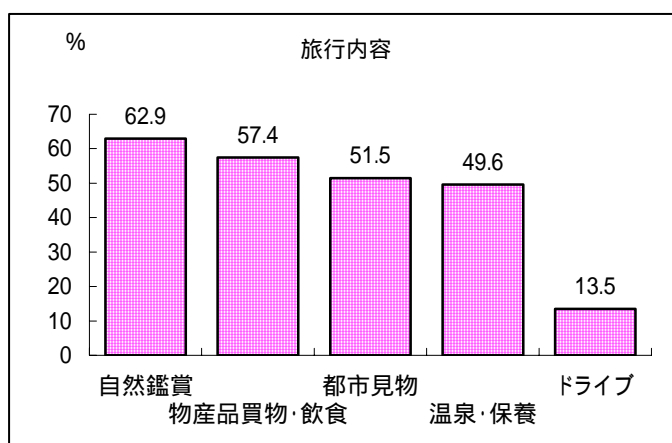
(単位：%)

	標本数	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上	不明
全体	100.0	4.2	14.3	14.1	20.6	21.9	24.8	0.1
春	100.0	1.4	10.3	8.2	17.7	25.3	37.1	0.0
夏	100.0	5.1	13.6	15.4	22.6	21.6	21.5	0.1
秋	100.0	0.7	9.0	9.0	17.3	26.3	37.5	0.2
冬	100.0	7.0	28.6	20.5	18.2	14.1	11.6	0.0

### (2) 旅行内容(複数回答)

旅行内容として最も多いものは、「自然鑑賞」で62.9%を占めており、次いで「特産品の買物・飲食」57.4%、「都市見物」51.5%、以下「温泉・保養」、「ドライブ」などの順となっています。

季節別では、春・夏・秋は「自然鑑賞」が6割以上を占めていますが、冬は「都市見物」が最も多く、「スポーツ・文化活動の参加・見学」の割合も高くなっています。



季節別の旅行内容＜複数回答＞

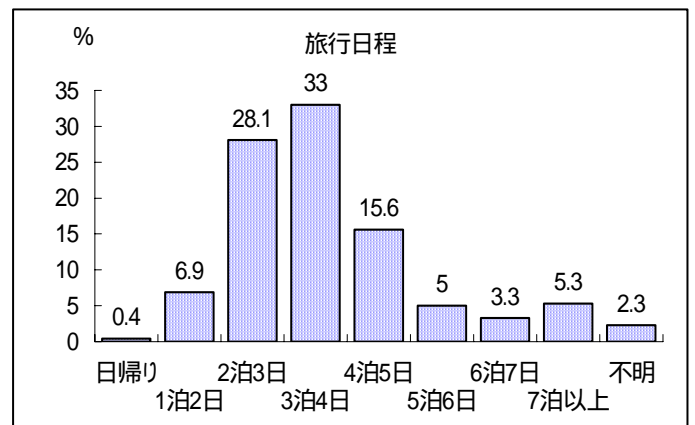
(単位：%)

	自然鑑賞	都市見物	ｽｰｯ・文化活動の参加・見学	温泉保養	行祭事・イベントへの参加
全体	62.9	51.5	8.6	49.6	4.2
春	61.9	58.1	3.4	51.4	1.5
夏	69.0	47.6	5.3	48.8	4.7
秋	66.2	54.2	2.6	66.0	2.0
冬	30.9	59.1	38.0	34.1	7.7
	集会・大会への参加	ドライブ	特産品の買物・飲食	テーマパーク遊園地	趣味・乗馬・農作業等の体験観光
全体	3.7	13.5	57.4	6.0	4.0
春	5.2	7.9	62.0	3.6	1.7
夏	2.5	17.9	52.2	8.1	4.7
秋	5.7	9.9	68.4	3.3	4.3
冬	5.2	3.0	65.2	1.1	14.0

(3) 旅行日程

最も多い旅行日程は、「3泊4日」で33.0%となっており、以下、「2泊3日」、「4泊5日」、「1泊2日」と続いています。

季節別では、夏と秋は「3泊4日」、春と冬は「2泊3日」が最も高い割合を占めています。



季節別の旅行日程

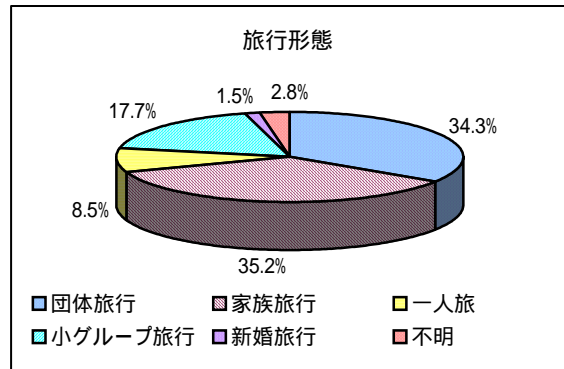
(単位：%)

	標本数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日	7泊以上	不明
全体	100.0	0.4	6.9	28.1	33.0	15.6	5.0	3.3	5.3	2.3
春	100.0	0.2	8.8	39.9	29.9	12.5	2.9	1.2	1.4	3.3
夏	100.0	0.6	4.8	23.6	34.0	16.5	6.3	4.8	7.7	1.7
秋	100.0	0.2	11.8	32.7	37.5	9.0	3.1	1.5	1.5	2.6
冬	100.0	0.5	9.5	30.0	27.7	21.8	3.9	0.7	2.3	3.6

(4) 旅行形態

「家族旅行」が35.2%で最も多く、次いで「団体旅行」34.3%、「小グループ旅行」17.7%、以下、「ひとり旅」、「新婚旅行」の順となっています。

季節別では、春と秋は「団体旅行」、夏は「家族旅行」、冬は「小グループ旅行」が最も高い割合を占めています。



季節別の旅行形態

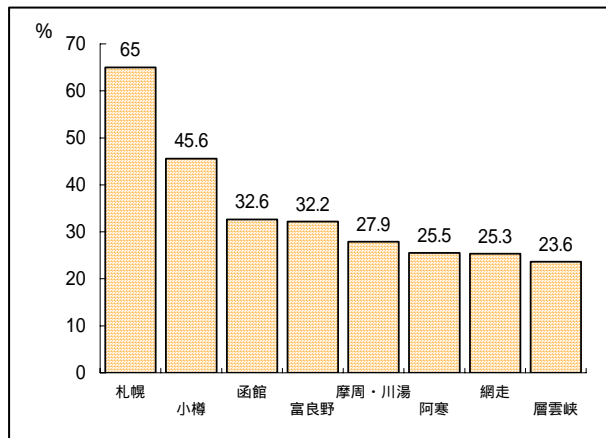
(単位: %)

	標本数	団体旅行	家族旅行	一人旅	小グループ旅行	新婚旅行	不明
全体	100.0	34.3	35.2	8.5	17.7	1.5	2.8
春	100.0	56.9	16.0	6.9	13.4	3.4	3.4
夏	100.0	27.1	46.6	7.7	15.6	0.8	2.2
秋	100.0	47.4	18.6	8.6	20.0	2.0	3.5
冬	100.0	25.7	22.5	14.3	31.4	2.0	4.1

(5) 訪問観光地(複数回答)

道内の主要な40観光地のうち、最も訪れた人が多いのは「札幌」で65.0%となっており、以下、「小樽」、「函館」、「富良野」、「摩周・川湯」などの順となっています。

季節別では、四季を通して「札幌」、「小樽」が1位、2位を占めており、夏はラベンダーなどが見頃の「富良野」、冬はウィンタースポーツが盛んな「ニセコ」が3位となっています。



上位5位<複数回答>

(単位: %)

順位	春	夏	秋	冬	年間
1位	札幌 73.2	札幌 62.3	札幌 63.2	札幌 69.1	札幌 65.0
2位	小樽 49.8	小樽 45.8	小樽 48.9	小樽 35.9	小樽 45.6
3位	函館 40.4	富良野 43.2	摩周・川湯 37.3	ニセコ 17.5	函館 32.6
4位	摩周・川湯 36.8	函館 33.1	函館 37.1	函館 15.2	富良野 32.2
5位	阿寒 34.5	美瑛 32.1	阿寒 34.6	定山渓 10.5	摩周・川湯 27.9

## 2 道内客の観光動態

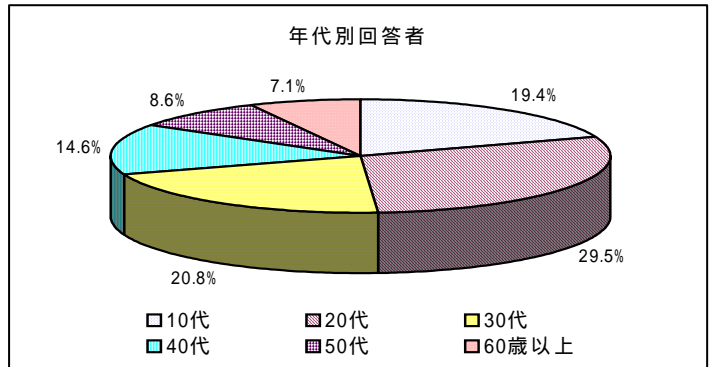
道では、本年度から四季ごとに道内の主な観光施設等において、道民を対象に道内観光についてのアンケート調査票を留置し、回収しています。

その結果から得られた、道内（道民）観光客の動態は次のとおりとなっています。

### （1）年代別回答者

回答者を年代別にみると、「20代」が最も多く、29.5%を占めており、次いで「30代」「10代」「40代」の順となっています。

季節別では、四季を通じて「20代」が最も高い割合を占めており、次いで春、夏は「10代」、「30代」、秋は「30代」、「40代」、冬は「30代」、「10代」の順となっています。



### 季節別・年代別の調査回答者

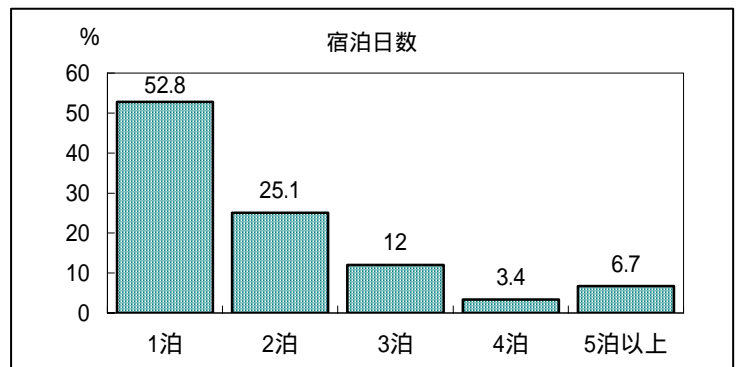
（単位：％）

	標本数	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上	不明
全体	100.0	19.4	29.5	20.8	14.6	8.6	7.1	0.1
春	100.0	24.1	27.4	16.5	14.9	8.2	8.8	0.0
夏	100.0	21.4	27.7	20.6	14.8	8.3	7.1	0.1
秋	100.0	12.6	30.6	22.6	15.4	11.0	7.8	0.1
冬	100.0	14.3	38.7	22.2	12.6	7.2	4.8	0.2

### （2）宿泊日数

宿泊客中、最も多い宿泊日数は、「1泊」で52.8%を占めており、次いで「2泊」が25.1%、以下、「3泊」「5泊以上」と続いています。

季節別では、四季を通じて「1泊」が最も高い割合をしめていますが、夏は他の季節より「5泊以上」の割合が高めとなります。





### 季節別の旅行日程

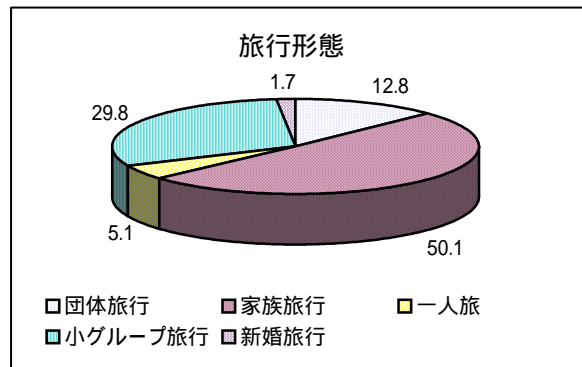
(単位：%)

	標本数	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊以上
全体	100.0	52.8	25.1	12.0	3.4	6.7
春	100.0	54.8	25.3	14.3	1.7	3.9
夏	100.0	48.1	24.5	14.0	4.4	8.9
秋	100.0	64.7	26.5	6.0	1.1	1.7
冬	100.0	60.5	26.0	7.1	2.0	4.5

### (3) 旅行形態

「家族旅行」が約5割を占めており、次いで「小グループ旅行」、「団体旅行」の順となっています。

季節別では、四季を通じて「家族旅行」が最も高い割合を占めていますが、春は「団体旅行」、冬は「小グループ旅行」の割合が他の季節より高めとなっています。



### 季節別の旅行形態

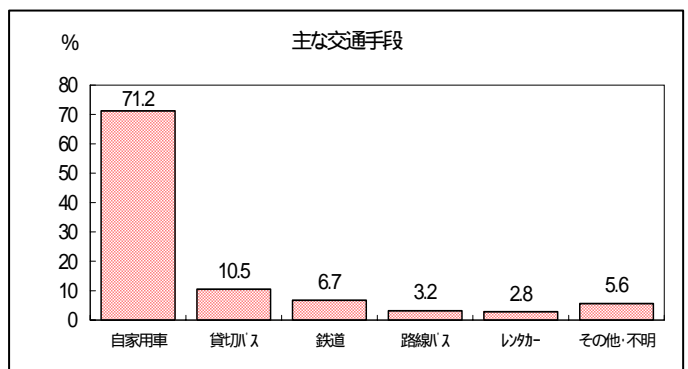
(単位：%)

	標本数	団体旅行	家族旅行	一人旅	小グループ旅行	新婚旅行	不明
全体	100.0	12.8	50.1	5.1	29.8	1.7	0.4
春	100.0	18.3	44.8	4.9	29.7	2.3	0.0
夏	100.0	12.8	52.2	5.1	28.1	1.3	0.4
秋	100.0	11.7	49.9	5.0	31.2	1.6	0.6
冬	100.0	10.0	43.5	5.3	36.9	3.8	0.4

### (4) 主な交通手段

主な交通手段は、「自家用車」が71.2%と高い割合を占めており、次いで「貸切バス」、「鉄道」の順となっています。

季節別では、四季を通じて「自家用車」が最も高い割合を占めていますが、春は「貸切バス」、冬は「鉄道」の割合が他の季節より高めとなっています。



### 季節別の道内旅行の主な旅行手段

(単位：%)

	標本数	貸切バス	鉄道	路線バス	自家用車	レンタカー	オートバイ	タクシー	自転車	航空機	その他	不明
全体	100.0	10.5	6.7	3.2	71.2	2.8	0.9	0.3	1.7	0.7	1.5	0.5
春	100.0	15.9	7.9	2.7	64.6	2.0	1.2	0.3	1.1	1.1	2.3	0.9
夏	100.0	10.2	6.0	3.2	71.6	3.2	1.0	0.3	1.9	0.5	1.6	0.4
秋	100.0	9.9	5.5	2.7	74.8	2.4	0.5	0.4	1.7	0.5	0.8	0.6
冬	100.0	9.4	11.1	4.0	69.8	1.5	0.1	0.4	1.0	1.2	1.1	0.2

# 訪日外国人入込客に関する調査の概要

## 1 訪日外国人入込客数（実人数）

本年度から調査を実施している訪日外国人宿泊者調査の「宿泊延べ数」をもとに、訪日外国人動態調査などによる「平均宿泊日数」、「宿泊施設以外を利用する割合」などから、平成9年度訪日外国人入込客数（実人数）を推計しますと、11万8,600人となります。

国別に訪日外国人入込客数をみますと、台湾が5万2,800人（44.5%）、韓国が1万5,700人（13.2%）、香港が1万人（8.4%）、アメリカが8,700人（7.3%）の順となっています。

## 平成9年度訪日外国人の来道客数（実人数）

（単位：人、%）

季節別	アジア							ヨーロッパ		北米		中南米	アフリカ	オセアニア	不明	合計
	台湾	韓国	香港	中国	シンガポール	その他	小計	ロシア	その他	米国	カナダ					
春	7,900	2,100	1,000	200	100	200	11,500	1,000	600	800	100	100	100	800	1,000	16,000
比率	49.4	13.1	6.3	1.3	0.6	1.3	71.9	6.3	3.8	5.0	0.6	0.6	0.6	5.0	6.3	100.0
夏	12,700	9,800	2,300	800	300	900	26,800	2,900	2,000	3,400	500	400	100	1,900	2,200	40,200
比率	31.6	24.4	5.7	2.0	0.7	2.2	66.7	7.2	5.0	8.5	1.2	1.0	0.2	4.7	5.5	100.0
秋	11,800	2,800	700	500	200	700	16,700	1,100	1,400	1,500	200	100	100	100	500	21,700
比率	54.4	12.9	3.2	2.3	0.9	3.2	77.0	5.1	6.5	6.9	0.9	0.5	0.5	0.5	2.3	100.0
冬	20,400	1,000	6,000	700	800	1,000	29,900	2,300	3,500	3,000	200	100	100	500	1,100	40,700
比率	50.1	2.5	14.7	1.7	2.0	2.5	73.5	5.7	8.6	7.4	0.5	0.2	0.2	1.2	2.7	100.0
年間合計	52,800	15,700	10,000	2,200	1,400	2,800	84,900	7,300	7,500	8,700	1,000	700	400	3,300	4,800	118,600
比率	44.5	13.2	8.4	1.9	1.2	2.4	71.6	6.2	6.3	7.3	0.8	0.6	0.3	2.8	4.0	100.0

## 2 訪日外国人宿泊者数

平成9年度訪日外国人宿泊者数は、宿泊延べ数で352,464人泊となっております。

道内6観光圏域別の訪日外国人宿泊延数の状況は、道央圏がもっとも多く228,837人泊（64.9%）、次いで道南圏が31,264人泊（8.9%）以下釧路・根室圏、道北圏、十勝圏、オホーツク圏の順となっております。

## 平成9年度国別訪日外国人宿泊延べ数

（単位：人泊）

	アジア							ヨーロッパ		北米	
	台湾	韓国	香港	中国	シンガポール	その他	小計	ロシア	その他	米国	カナダ
宿泊延数	171,013	42,739	30,313	6,544	4,243	13,219	268,061	8,772	21,237	24,799	2,572

	中南米	アフリカ	オセアニア	不明	合計
宿泊延数	3,421	3,604	5,389	14,608	352,464

平成9年度圏域別訪日外国人宿泊延べ数

(単位:人泊)

	アジア								ヨーロッパ					
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	フィリピン	その他	小計	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他	小計
道南	321	1,054	21,731	659	109	39	457	24,370	796	180	58	200	181	1,415
道央	4,148	38,226	97,776	25,024	2,868	515	4,286	172,843	3,167	1,568	2,008	3,035	10,342	20,120
道北	396	422	19,289	1,482	829	77	202	22,697	1,478	133	51	124	550	2,336
オホーツク	109	1,716	4,184	157	198	82	91	6,537	222	118	19	199	111	669
十勝	616	1,037	5,986	2,865	216	886	5,305	16,911	120	73	121	122	919	1,355
釧路・根室	954	284	22,047	126	23	54	1,215	24,703	2,989	183	45	472	425	4,114
合計	6,544	42,739	171,013	30,313	4,243	1,653	11,566	268,061	8,882	2,255	2,302	4,152	12,528	30,009

	北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計
	米国	カナダ			豪州	その他		
道南	2,779	233	45	20	248	48	2,106	31,264
道央	18,632	1,762	1,707	433	3,656	531	9,153	228,837
道北	1,614	171	36	83	141	40	1,182	28,300
オホーツク	534	138	45	1	57	123	541	8,645
十勝	462	79	1,482	3,012	39	68	1,474	24,882
釧路・根室	778	189	106	55	406	32	153	30,536
合計	24,799	2,572	3,421	3,604	4,547	842	14,608	352,464

訪日外国人宿泊延べ数を国別に見ますと、台湾が171,013人泊(48.5%)で最も多く、次いで韓国42,739人泊(12.1%)、以下香港、アメリカ、ロシアの順となっております。

市町村別の訪日外国人宿泊客数の状況は、札幌市が93,771人泊で最も多く、次いで壮瞥町35,112人泊、以下函館市、千歳市、阿寒町の順となっております。

宿泊延べ数の多い上位5ヶ国

(単位:人泊)

順位	国名	宿泊延べ数
1	台湾	171,013
2	韓国	42,739
3	香港	30,313
4	アメリカ	24,799
5	ロシア	8,882

訪日外国人宿泊延べ数の多い市町村

(単位:人泊)

順位	市町村名	宿泊延べ数
1	札幌市	93,771
2	壮瞥町	35,112
3	函館市	28,316
4	千歳市	24,643
5	阿寒町	21,667

また、国別で多い台湾、韓国を市町村別に見てみると、台湾は、札幌市での宿泊が最も多く34,271人泊、次いで壮瞥町27,230人泊、以下函館市、阿寒町、上川町の順となっております。韓国は、壮瞥町での宿泊が最も多く7,882人泊、次いで札幌市7,519人泊、以下登別市、千歳市の順となっております。

台湾の宿泊延べ数の多い市町村  
(単位：人泊)

順位	国名	宿泊延べ数
1	札幌市	34,271
2	壮瞥町	27,230
3	阿寒町	21,351
4	函館市	20,699
5	上川町	16,426

韓国の宿泊延べ数の多い市町村  
(単位：人泊)

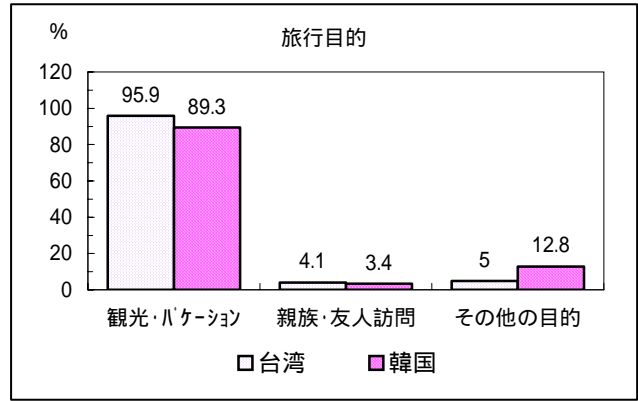
順位	市町村名	宿泊延べ数
1	壮瞥町	7,882
2	札幌市	7,519
3	登別市	7,305
4	千歳市	7,222

### 3 訪日外国人（台湾・韓国）の観光動態

#### (1) 旅行目的

道内旅行の目的をみると、観光目的が台湾で95.9%、韓国で89.3%を占めており、親族訪問など他の目的は僅かな割合となっています。

上期・下期別では、下期は観光目的が上期より台湾で5.2%、韓国で33.2%低くなっています。



#### (1) 旅行目的

<複数回答>

(単位: %)

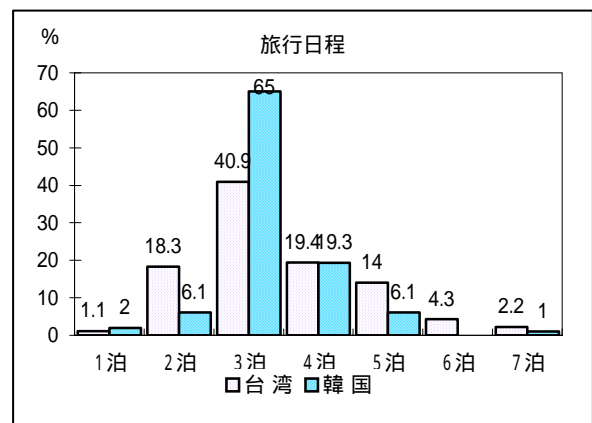
旅行目的	上期		下期		年間計	
	台湾	韓国	台湾	韓国	台湾	韓国
観光・パッケージ	94.9	98.4	89.7	65.2	95.9	89.3
親族・友人訪問	3.4	2.4	5.1	6.1	4.1	3.4
企業内会議	-	-	-	3.0	-	1.0
企業招待旅行	1.7	-	2.6	-	2.0	-
見本市・見学	-	0.8	-	9.1	-	3.4
研修・視察	-	1.6	-	0.0	-	1.0
その他業務	-	1.6	2.6	6.1	1.0	2.9
国際国流	-	-	-	4.5	-	1.5
文化・スポーツ	-	-	-	3.0	-	1.0
その他業務	3.4	1.6	-	1.5	2.0	1.5
不明	-	-	-	1.5	-	0.5

#### (2) 旅行日程

道内旅行の宿泊日数をみると、台湾では3泊が40.9%を占め、次に4泊の19.4%の順となっており、韓国は3泊が65.0%を占め、次に4泊の19.3%の順となっています。

また、平均宿泊数は、台湾では3.5泊、韓国では3.3泊となっています。

上期・下期別では、下期は台湾、韓国とも2泊以下の割合が減少しており、台湾はすべての人が3泊以上となっています。



#### (2) 旅行日程

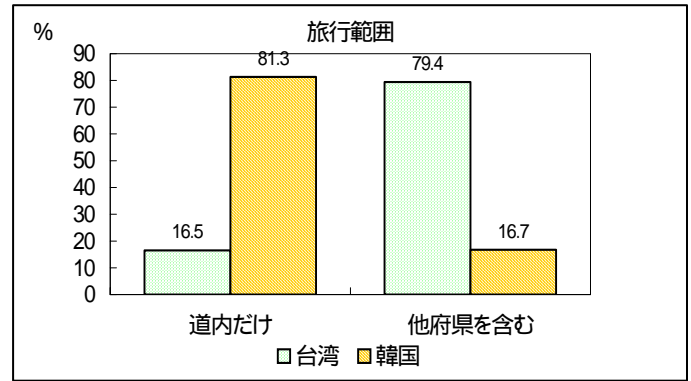
(単位: %)

旅行目的	上期		下期		年間計	
	台湾	韓国	台湾	韓国	台湾	韓国
1泊	1.8	2.4	-	1.7	1.1	2.0
2泊	29.8	8.0	-	1.7	18.3	6.1
3泊	43.9	64.0	36.4	66.7	40.9	65.0
4泊	5.3	21.6	39.4	13.3	19.4	19.3
5泊	12.3	2.4	18.2	15.0	14.0	6.1
6泊	7.0	-	-	-	4.3	-
7泊	-	1.6	6.1	-	2.2	1.0
11泊	-	-	-	1.7	-	0.5
平均宿泊数	3.2泊	3.2泊	4.0泊	3.5泊	3.5泊	3.3泊

( 3 ) 他府県への旅行

訪日外国人の旅行範囲をみると、台湾の約8割が他の他府県を訪問していますが、韓国は道内旅行だけの割合が8割を占めています。

上期・下期別では、台湾、韓国とも道内旅行だけの割合が増加しています。



( 3 ) 他府県への旅行

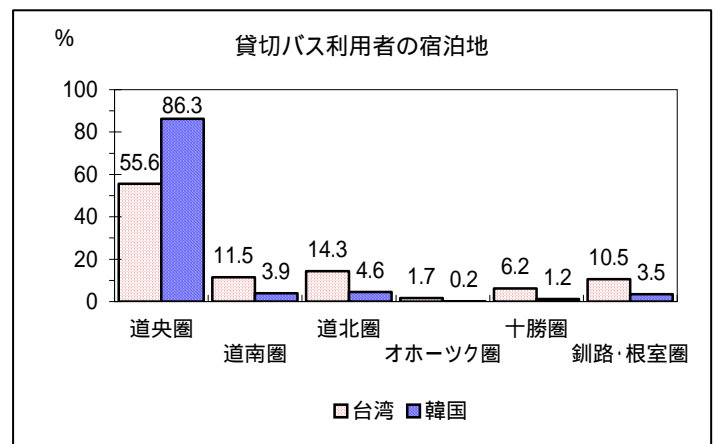
( 単位 : % )

今回の旅行範囲	上期		下期		年間計	
	台湾	韓国	台湾	韓国	台湾	韓国
道内だけ	5.2	77.6	27.8	85.0	16.5	81.3
他府県を含む	94.8	18.4	63.9	15.0	79.4	16.7
不明	-	4.0	8.3	-	4.2	2.0

( 4 ) 貸切バス利用者の宿泊地

訪日外国人の貸切バス利用状況調査 (対象: 北海道バス協会加盟のバス事業者) から貸切バスを利用した訪日外国人の宿泊地をみると、台湾は道央圏が55.6%、次に道北圏の14.3%、道南圏の11.5%の順となっていますが、韓国は道央圏が86.3%を占め、他の圏域は僅かな割合となっています。

上期・下期別では、台湾は同じ傾向ですが、韓国は下期のほうが道央圏の集中度が低くなっています。



( 4 ) 貸切バス利用者の宿泊地

( 単位 : % )

宿泊地	上期		下期		年間計	
	台湾	韓国	台湾	韓国	台湾	韓国
道央圏	51.2	92.9	59.9	79.7	55.6	86.3
道南圏	13.1	3.0	9.9	4.7	11.5	3.9
道北圏	15.3	2.4	13.3	6.7	14.3	4.6
オホーツク圏	2.5	-	0.8	0.4	1.7	0.2
十勝圏	6.7	-	5.7	2.3	6.2	1.2
釧路・根室圏	10.7	0.8	10.3	6.2	10.5	3.5
不明等	0.4	1.0	0.0	-	0.2	0.5